

平成28年度 社会貢献広報の見直しについて

① 発売団体による社会貢献広報

課題

① 積極的な実施となっていない。

⇒社会貢献広報は、宝くじの意味やその販売目的について理解を深めてもらうものである一方、直接売上げの向上につながらない側面があることに加え、実施方法に関する知識不足から、積極的な実施となっていない。

② 広報に利用できる素材を確保することが難しい。

⇒HP等に掲載する素材は、素材によっては掲載に制約があり、掲載にあたっては事業担当部署の協力を得る必要があることなどから、広報に利用できる素材を確保することが難しい。



社会貢献広報の重要性を踏まえた上で、更なる広報の充実と活性化を図ることが必要である。

- ・ 各発売団体による積極的な取り組み・・・ 社会貢献広報が法律上の要請であること、イメージアップによる売上増により充当事業の財源確保につながることを事業担当部署へ説明して協力を得て、他の発売団体の取組事例や好例案を参考にしながら積極的に広報を実施する。
- ・ 共通のフリー素材の作成及び利用・・・ 自由にHP等に掲載できる素材を作成して、各発売団体が活用することで広報の充実を図る。
- ・ SNS等の広報媒体を活用・・・ 各発売団体が持つSNS等の様々な広報媒体を効果的に活用して宝くじの用途をPRする。

※各発売団体で実施している社会貢献広報の共有化や好例案の作成等は継続して実施して、社会貢献広報の活性化を図る。

その他課題

グリーンジャンボ均等割収益金(均てん化)・・・ 今後も継続

⇒ 今後、各発売団体が更なる社会貢献広報の充実を図っていくためには、財源の確保が必要である。各発売団体は、この財源が「発売団体の着実な広報を推進すること」を目的とした財源であることを踏まえ、積極的に社会貢献広報の強化に努めることとする。

② 日宝協・自治総による社会貢献広報(再委託)

	一般財団法人 日本宝くじ協会	一般財団法人 自治総合センター
助成対象	公益法人	市町村等
助成事業	・宝くじのイメージアップにつながるような公益性の高い事業 ・個別自治体にとどまらない、広域的な事業	・住民に最も身近なコミュニティ活動等の事業
直接施行事業	・宝くじドリーム館の管理運営 ・宝くじに関する各種調査の実施	・文化公演やスポーツフェア等の芸術スポーツ関係のイベント事業
費用	32億円(助成27億円)	87億円

両法人への再委託について ⇒ 今後も再委託を継続する。

- 発売団体による社会貢献広報の補完
⇒ 両法人は助成事業を通じて、各発売団体が個々にカバーできない広報を実施しており、広報効果の広がりを勘案すると今後も必要な事業である。
- 収益金の使途のPR
⇒ 検診車の整備助成等の事業を通じて、宝くじの収益金の使途を広く周知する効果があり、今後もその効果が期待できる。

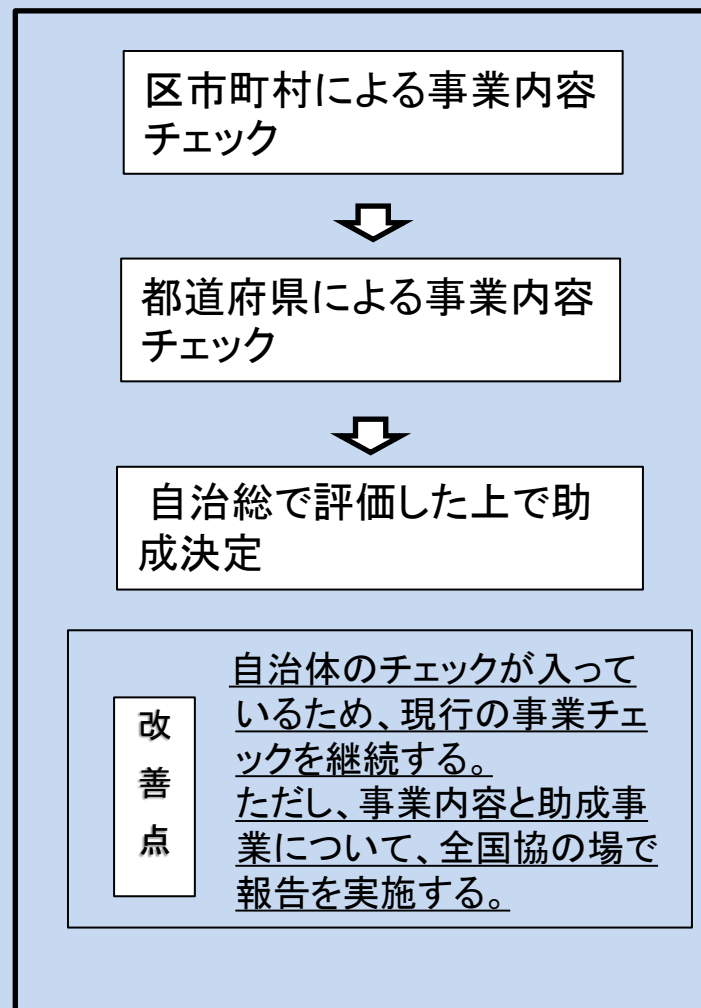
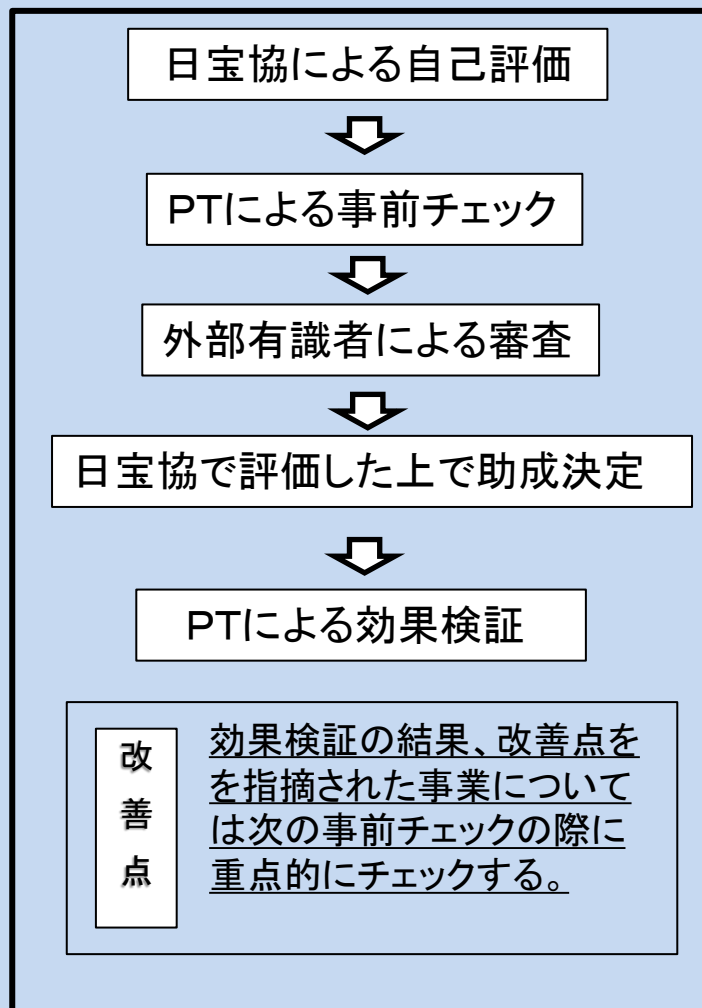
ただし、発売団体の関与を強化し、実効性を高める。

② 日宝協・自治総による社会貢献広報(再委託)

一般財団法人 日本宝くじ協会

一般財団法人 自治総合センター

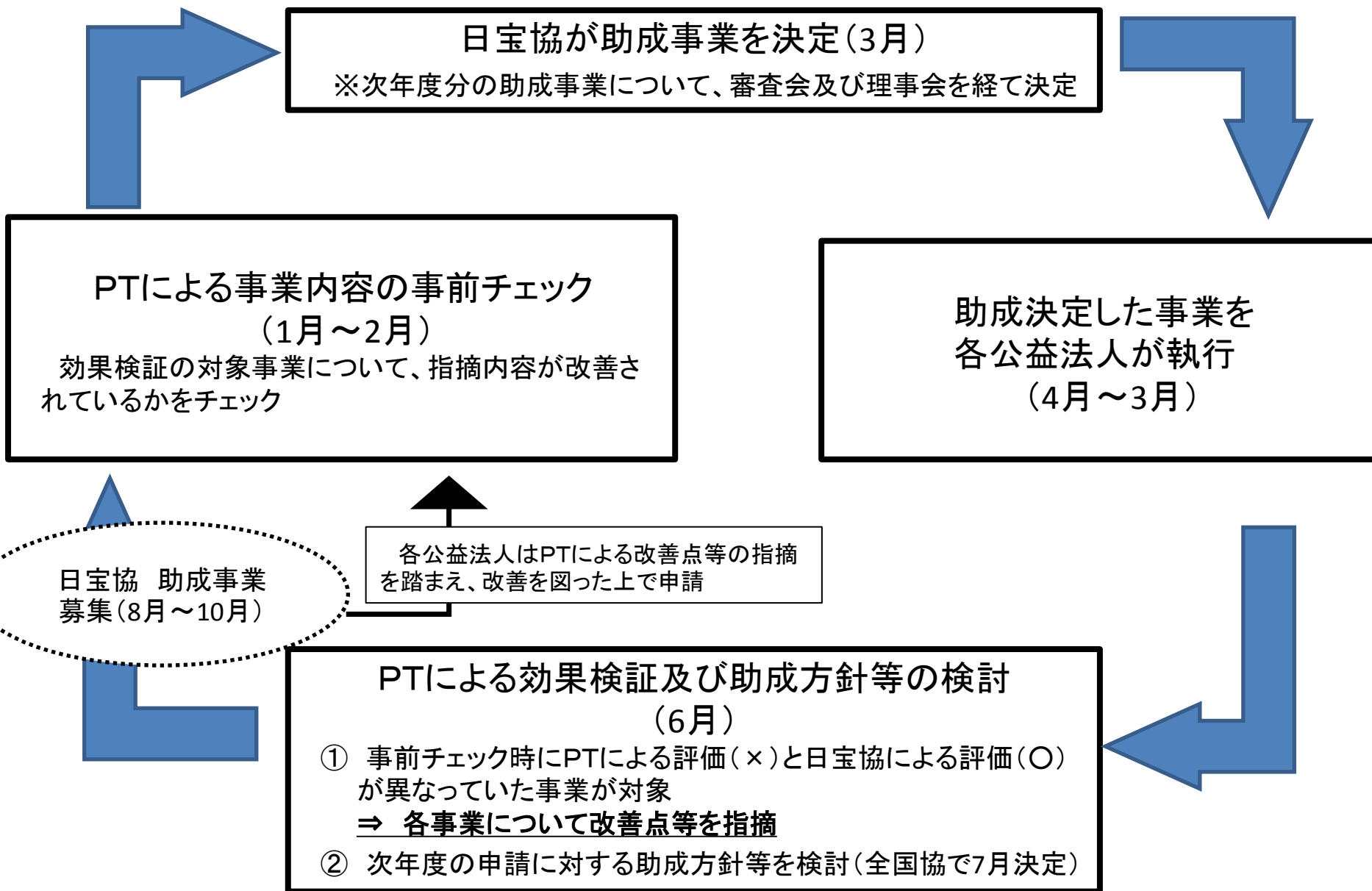
助成事業 に対する 発売団体 の関与



日宝協及び自治総は、助成した団体や事業を通じて、今後も宝くじの収益を有効活用することによって、宝くじが社会に貢献していることを積極的に広報していくこととする。

② 日宝協・自治総による社会貢献広報(再委託)

◎ 事業をチェックするサイクルによって日宝協の助成事業の実施効果を高める。



③ テレビCM等を通じた社会貢献広報

現在実施中の広報と課題

① テレビCMによる広報

販売促進のCMとは別に、社会貢献広報専用のCMを作成して全国的に放送している。

(課題)ジャンボや数字選択式宝くじなどの販売促進のCMに比べ、露出が少ない。



② 公式サイトによる広報

⇒ 宝くじ公式サイト「知ってる!?宝くじ」で各団体の充当事業を映像で広報している。また、各団体の社会貢献広報の内容や充当事業を一覧にして公開している。

(課題)他の媒体との連携が少なく、サイトの認知が広まっていない。



③ 売場での広報

⇒ 売場のディスプレイで各発売団体別の広報を実施している。

(課題)広報効果が十分に浸透していない。



◎ 広報の効果をより高める施策を実施

- ① テレビCMによる広報 ⇒ CMの内容の充実を図った上で、放送量を増加し、広報効果を高める。
- ② 公式サイトによる広報 ⇒ SNSの活用や関連HPとのリンクにより、波及効果を高める。
- ③ 売場での広報 ⇒ 各発売団体が提供する広報内容の充実を図り、広報効果を浸透させる。